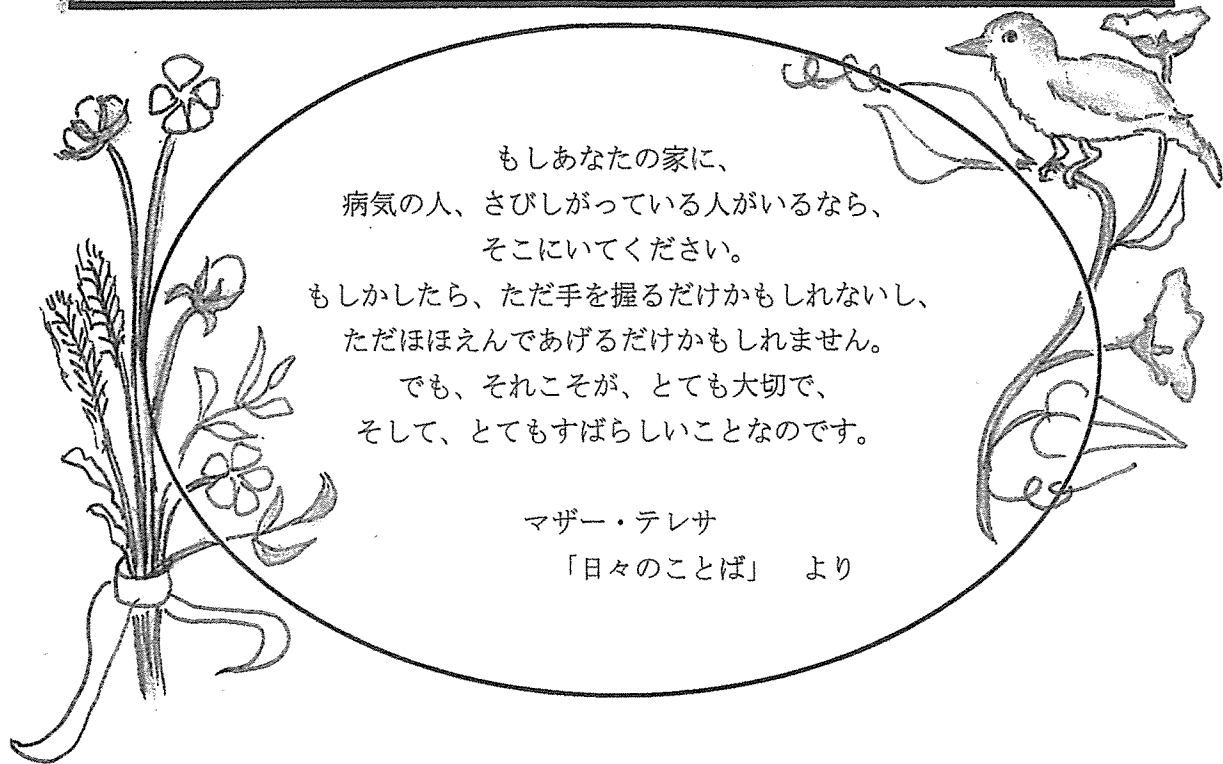


# おはなしのへやだよ！ 9月



もしあなたの家に、  
 病気の人、さびしがっている人がいるなら、  
 そこにいてください。  
 もしかしたら、ただ手を握るだけかもしれないし、  
 ただほえんであげるだけかもしれません。  
 でも、それこそが、とても大切に、  
 そして、とても素晴らしいことなのです。

マザー・テレサ  
 「日々のことば」 より

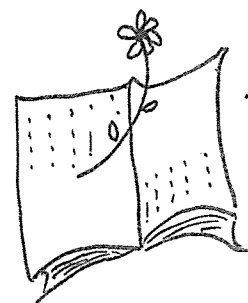
強い太陽の光を受けて輝いた夏の花たちが次第に色あせ、夜には秋の虫たちが歌を奏でようになりました。残暑の厳しさの中にも、秋の気配を感じますね。

夏を十分に楽しめたでしょうか。子どもさんたちは、それぞれご家庭で思う存分に過ごし、新しい季節の始まりのために、仲間たちとの交わりや学びのためにエネルギーを蓄えたことでしょう。

「絵本塾・おはなしのへや」の再開です。一緒に楽しみましょう。くつろぎましょう。

## 2016年 10月のご案内

日時 10月14日(金) 午前10:30~12:00 昼食  
 場所 日本キリスト改革派 浜松教会 (お問い合わせ: 望月鈴子へ)  
 (432-8022) 中区山手町45-3 ☎: 053・453・1694  
 会費 500円 (一人でも親子何人でも) 講座、昼食、お便り  
 <Part I> 一緒に遊ぼう <Part II> 絵本から考える  
 手遊び、リズム遊び、絵本: おおきな木 篠崎書林  
 シェル・シルベスタイン さくえ  
 パネル・シアター ほんだ きんいちろう やく  
 他 テーマ: 与えすぎはどうなる?



## お別れの時がくる



今年も、間もなく「敬老の日」が訪れます。長寿・高齢化社会日本では、何歳からを本当の高齢と考えるのか、その概念を見直す時がきているのかもしれませんが。人として尊ばれるのは、もちろん生まれてから召されるまで全生涯ですが……。

絵本: さよなら エルマおばあさん  
 写真・文 大塚 敦子  
 小学館

しかし、長寿社会となり、人が生きる環境がどんなに良く整えられ、医学・医療技術が進歩・発展しても、人はだれでも必ず死にます。どんなに願ってもこの現実の世界に再び帰ってくることは出来ません。「ありがとう」、「ごめんなさい」などの思い・言葉を伝えたくても決して伝えることが出来ない厳しい断絶がそこにはあります。

医学が進歩し、たくさんの娯楽に囲まれ、また長寿、核家族化によって「死」による厳しい「断絶」の現実を可視化しにくい時代になっています。しかし、「死」は必ず訪れるのですから「生きること」、「死ぬこと」について、ことに「死」を隠さずに話す、見せる真実の関係、信頼を家族の中で築くことが大切ではないかと思わせられています。

「さよならエルマおばあさん」という写真絵本があります。ガンを告げられた85歳のエルマおばあさんの生きる「いのちの姿」を写真で伝える一年間の記録です。語り手は、おばあさんが買っている8歳のオス猫スターキティ。エルマおばあさんは、ある日医者から血液のガンであることを知らされました。「わたしの命は、あと1年くらいだろうから、いろいろ準備をはじめないとね」とおばあさんは、死に対する備えや気持ちをネコにもわかるように優しく穏やかな口調で語ります。

その日からおばあさんは、次の世界に旅立つ準備を始めました。家族の歴史を書き残し、「最後まで楽しみながら行きたいね」と友人たちとも過ごし、お化粧もし、大好きな庭の手入れもします。十分に長生きしたから、医療器具をたくさんつけて、無理に命を引き延ばさないでほしい、という書類にもサインしました。

「このさき、歩けなくなったり、食事がとれなくなったり、ひとつひとついろんなことができなくなっていくだろうけど、それは、体が旅にできる準備をしているからなんだよ」「死ぬってことはね、魂が、この体をでて、こことは別の世界に行くだけなんだからね。弱って、もはや立てなくなってもネコを抱き「わたしはね、これまでの人生で、いまがいちばん幸せだよ。……仲たがいた人のことも、いまは許せるから……」。死を覚悟し、備えしたエルマおばあさんの凛と美しい顔が写されています。

次第に弱り、死に近づく人の偽りのない姿が写しとられていきます。命の消えた肉体も写されています。だれも避けることの出来ない死の現実がそこにあります。一度生まれてきて、誰でも一度必ず体験する死という事実の厳かさがそこにはあります。今の時代、「いのちの終わりをみつめる」体験をする機会はなかなかないかもしれませんが、大切なことだと思われています。

